

# 横浜市立南希望が丘中学校



## みんなで考え、みんなで行動 ～世界を変える第一歩を踏み出す～

校長 内田克弥

南希望が丘中学校は、令和3年度よりSDGs達成の担い手育成（ESD）推進校として、ESDを推進しています。

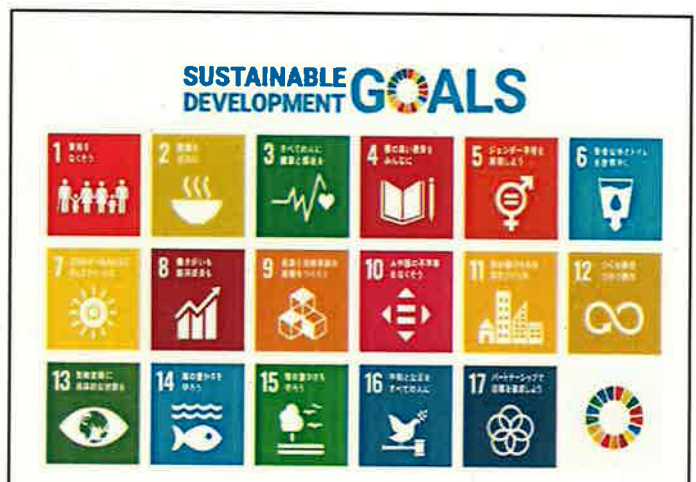
令和3年度は、「SDGsって何？」から始まり、「衣・食・住」に「衣」をターゲットとし、保健委員会主導のもと、ユニクロの「服のチカラ プロジェクト」の参加し、子ども服の回収を呼び掛けたところ、多くの子ども服が集まりました。このような活動は、SDGs達成のための行動である、ということも多くの子供が自覚した1年だったと思います。

令和4年度は、「服のチカラ プロジェクト」だけでなく、国連WFPが行っている「レッドカップキャンペーン」にも参加し、「衣・食・住」の「食」への取組を行いました。その他、令和4年度は、コンタクトレンズの空ケースの回収、SDGs推進のためのエコバックの制作も行いました。

この2年間の取組を通して、生徒一人ひとりの「SDGs」への理解もだいぶ深まってきているように感じます。

南希望が丘中学校では、SDGsへの取組について、「みんなで考え、みんなで行動」することを大切にしています。「服のチカラ プロジェクト」や「レッドカップキャンペーン」についても、「服」の必要性や「食品ロス」や「貧困」などについて、まずは「みんな考え」、話し合うことから始めます。そして、実際に自分たちのできることを「みんなで行動」します。そのような活動の中で、生徒たちは、学びを深めるとともに、社会に目を向け始めます。現在、多くの生徒が、自分たちの周りの問題に目を向けています。

南希望が丘中学校の取組は、まだまだ始まったばかりであり、SDGs達成に向けて、わずかな一歩を踏み出したところにすぎません。今後も様々な活動を通して、「他者」や「社会」に積極的に働きかける等、「主体的に行動を起こすことができる「SGDsの担い手」、「社会を変える担い手」の育成に向けて、ESDを推進していきます。



横浜市立南希望が丘中学校は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

学校教育目標 ～挑戦・発信・錬磨～

○主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】

○人を思いやり、自分や周りを大切にする心を育てる。【徳】

○様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛えると【体・開】

○社会の一員として、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付ける。【公・開】



### 1 学校教育目標とESDを通して育成したい資質・能力とのつながり

本校には3つのスローガンがあります。それは、「挑戦」「発信」「錬磨」です。

まずは「挑戦」です。今回ESD推進を始めるにあたって子どもたちはとても意欲的で新しいことに挑戦するよい機会となりました。

次に「発信」です。今回の取組をなぜ行おうとしているのかを聞かれて答えることで、自分の考えや思いを多くの人に伝え、多くの人とコミュニケーションを取ることで、世界が広がっていくと考えます。

三つ目は「錬磨」です。それぞれ一生懸命取り組んでみることによって、きっと今までとは違う「自分」に出会えるはずです。

### 2 SDGs達成の担い手育成(ESD)の視点で取り組んだこと

ユニクロ服のチカラプロジェクトの取組です。約760枚近くの洋服が集まりました。



美術部新聞班の取組です。今回の服回収について特集を組んでくれました。あわせて、ペットボトルのキャップの回収についても書かれています。



図書館でも、SDGsの展示をしていました。子どもたちが手に取って読んでいる姿が何人も見られて、少しずつですが広がりつつあるのがわかりました。

### 3 ESDによる「変容の視覚化」の手法

今年度の取組は、スライドや動画を作成し、全校に流し報告となります。



SDGsの説明から始まるので、もう一度SDGsとは何かを確認できます。また、発送したところまでスライドがあるので、学校としてどんな取組をしたのかを認識できます。

### 4 ESDによって引き出すことができた価値 (evaluation=評価)

まだ、取組を始めたばかりなので、ESDとは何かを考え、気づくということができればそれでよいと思います。街中にはたくさんのSDGsのマークがあふれています。その中で、来年度以降子どもたちからと組んでみたいことが出てくるとより効果的な取り組みになるかと考えています。





今年度はハママーク・Nanki

**学校教育目標** ～挑戦・発信・錬磨～

- 主体的に考え、伝える力と課題を解決する力を高める。【知】
- 人を思いやり、自分や周りを大切にできる心育てる。【徳】
- 様々なふれあいを通し、豊かな心と体を鍛える。【体・開】
- 社会の一員として、広い視野に立ったものの見方や考え方を身に付ける。【公・開】

**育成を目指す資質・能力**

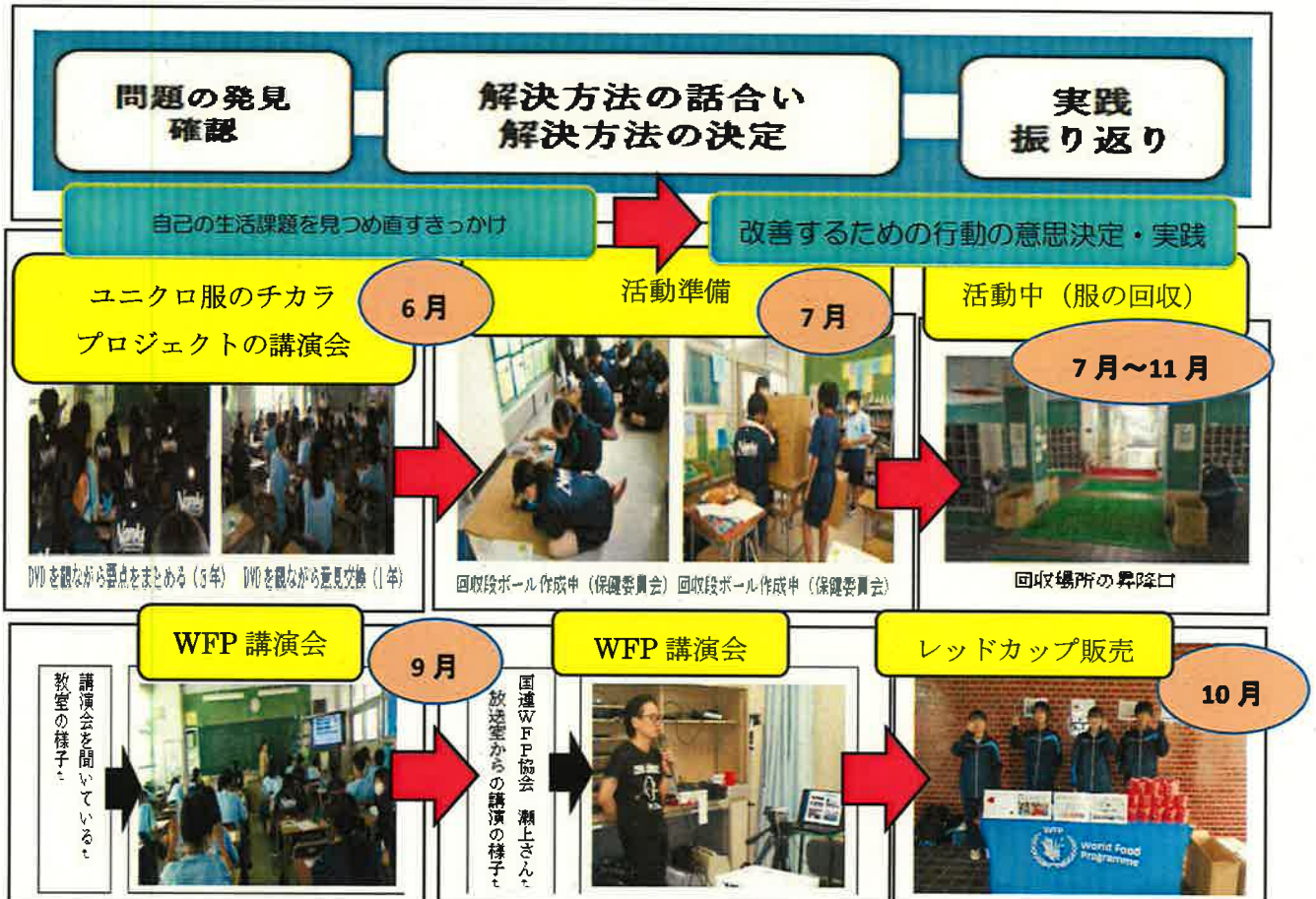
- 自己肯定感・協働・挑戦する気持ち（「学びに向かう力、人間性等」）
- 課題解決力・発信力・コミュニケーション力（「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」）

ESDを通して育成したい資質・能力

健康に生きていくために「衣・食」について理解し、自分の課題に気づき、日頃の生活の仕方を見直す活動を通して、主として次のような資質・能力を育成する。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
①意思決定したことを実践し続けていくために必要な行動の仕方	②自己の課題を見だし、解決方法を見通し考え、話し合う力	③将来にわたって自他の健康で安全な生活を送ろうとする態度

1 ESDを通して育成したい資質・能力の具体



## 2 ESDの価値を引き出すために

### 試行錯誤したこと

(1) 自己の「衣・食」の課題の改善に向けて、理解を深めること

最初に目指す資質・能力は「①意思決定したことを実践し続けていくために必要な行動の仕方」です。【知識・技能】として「学んだことを理解し、「衣・食」に関して日々続けていくことができる知識を身に付けている」姿として子どもたちはワークシートを記入しながら、「衣・食」は人間の生命維持や健康及び生活と密接な関わりがあり、重要な役割があることを理解できるように、問いかけ、支援しました。

(2) 自己の生活課題を見つけるようにする

次の目指す資質・能力は「②自己の課題を見だし、解決方法を見通し考え、話し合う力」です。【思考・判断・表現】の「世界の実情を知り、自分の生活や行動について振り返り、課題に気づき、解決方法を見通している」姿として、一人ひとりが考えられるよう、学級の中で共有の報告の場を設けました。また、世界の人々と今の自分とワークシートを記入し、子どもが課題に気づき、解決方法を見通せるように支援しました。



↑SDGsすごろく(総合)

(3) 生活改善に向け、生活場面を振り返り、自らの問題と捉えることができるようにすること

実践場面での目指す資質・能力に「③将来にわたって自他の健康で安全な生活を送ろうとする態度」があり、【主体的な態度】として子どもたちが「意思決定したことに向けて、継続的に取り組もうとしている」姿に、継続的に取り組むことができるよう、ガン教育や理科の授業でのアルコールパッチテストなど普段の授業内でも取組をし、見守ったり声を掛けたりしました。声かけにより、動機づけにつながる支援をしました。



↑ガン教育講演



↑アルコールパッチテスト

## 3 学校全体でESDに取り組むことによって引き出すことができた価値

- (1) どうして私たちは服を着るのだろうか？命を守るとはどういうことだろうか？人としての尊厳を守るというのはどういうことだろうか？服を本当に必要としている人々とは？というような話をDVD視聴しながら、実際に私たちはなにができるだろうということで、グループごとに話し合い、そして服を必要としている子どもたちに一枚でも多くの服を届けるために、ユニクロと協力して服を集めることを学びました。
- (2) WFP講演を聞いた後に書いた感想の中の、印象に残った言葉はという質問に、『日本の食品ロスは国連WFPが支援しているものの約1.4倍ということ。私たちの周りでは、あまり貧困という言葉はなじみのない言葉です。だからこんなにロスが大きくなってしまっているのではないかと思います。』や『子どもの腕がペットボトルのキャップからゴルフボールくらいの腕の太さだということが印象に残った。』『他の地域（貧困の地域）は学校に行く理由が給食を食べることと自分たちとは目的が全く違うこと。』などがありました。



最後に、今現在、子どもたちがデザインをしたエコバック作成している真っ只中です。まだまだ、挑戦し続けます！！